



平成29年8月7日

## 「第2回全国高校生SBP交流フェア」の開催について

文部科学省では、地域振興の観点から、地元に残って地場産業の活性化やまちづくりを担う人材を各地で養成するために、高校生等が地域の課題を実際にビジネスの手法を用いて解決する取り組み「地域ビジネス創出事業」(Social Business Project: 略称SBP)を進めています。

この度、この取り組みの一環として、「第2回全国高校生SBP交流フェア」が開催されますので、お知らせします。

1. 日程 平成29年8月18日(金)～19日(土)
2. 会場 三重県伊勢市(伊勢神宮外宮前特設会場、皇學館大学キャンパス)  
三重県多気町(高校生レストラン「まごの店」、三重県立相可高等学校)
3. 主催 未来の大人応援プロジェクト実行委員会  
共催 文部科学省
4. 参加者 24団体、約360名(生徒約230名、関係者等約130名)
5. 趣旨 地域の課題をビジネスの手法を用いて解決していく取組を行っている高校生が、全国から一堂に会して、“取組の紹介”や“開発した商品等の紹介・販売”を通じて情報交換やネットワーク構築の場を提供する。また、互いの取組を評価することでモチベーションを高めながら、さらに現場で進化させることを目的とする。  
当行事では、趣旨に賛同した関係各府省の後援や、各種企業が協力して実施する“民官地”協働プロジェクトであることが特徴。  
「SBPチャレンジアワード」においては、最優秀団体に文部科学大臣賞を授与するほか、三重県知事賞及び協賛各企業等による特別賞を授与。
6. URL <http://s-kouryu.net/>

## 【プログラム】

### ○ 1日目 平成29年8月18日（金）

時刻	内容
13:00～	オープニング・オリエンテーション
13:20～	高校生による参加団体毎のポスターセッション（各ブースで実施）
15:30～	講演 「デザインのカ × 地方創生」 武井 史織 氏 アドビ システムズ 株式会社 Adobe Creative Cloud コミュニティマネジャー
16:00～ 18:30	ワークショップ
20:00～	オールラウンドセッションへの出場団体発表（ポスターセッション上位6団体）
20:30	終了

### ○ 2日目 平成29年8月19日（土）

時刻	内容
8:30～	各参加団体PRや展示販売活動による実践交流
13:50～	SBPチャレンジアワード開会式
14:00～	オールラウンドセッション（各参加団体によるプレゼンテーション）
17:30～	講演 「新しい時代の新しい生き方・働き方」 角田 陽一郎 氏 バラエティ・プロデューサー
18:00～	結果発表・表彰 『文部科学大臣賞』 『三重県知事賞』 『特別賞』（協賛企業・団体、審査員による賞）
18:30～	閉会式

生涯学習政策局参事官（連携推進・地域政策担当）付  
参事官補佐 米本、林 企画係 藤原  
電話：03-5253-4111（代表）（内線：3276）  
03-6734-3276（直通）  
メール：chiiki@mext.go.jp

## 『2017年 第2回全国高校生SBP交流フェア』SBPチャレンジ部門 参加団体一覧

参考1

番号	高校名 (出場回数)	取組	取組内容とアピールポイント(AP)
1	(2回目) 青森津軽SBP 青森県立中里高校 " 鱒ヶ沢高校 " 木造高校	対象:一般 内容:セレクトギフト 活動:2年目	(内容)セレクトギフトを取り組む。高校生の視点で特産品を厳選し企業訪問や仕入交渉、販売に至るまでの行程を高校生が手掛けることによって、キャリア教育の実践となり地域や高校の魅力化につなげている。また、SBP交流フェアへの参加により、全国で活躍する高校生との交流が図られたため、個々の自発的行動や意識の向上になった。地域が誇る人材を育成し地域を盛り上げ活性化する活動に取り組んでいる。 (AP)青森県津軽地域の3町(鱒ヶ沢町、深浦町、中泊町)にある高校がSBPでつながる"三校連携"の取組み。この取組みを県全域に広げ、オール青森の取組みにしていきたい。
2	(初) 青森県立 百石高校	対象:一般 内容:高校生が運営するレストラン 活動:2年目	(内容)企業が運営する飲食施設「おいらせ交流館」を借用し、メニュー作り、仕込から調理、接客、食材管理、後始末までを生徒が行う高校生レストラン「キッチンいちよの森」を開店している。技術向上のための実技練習やメニュー開発のための試作やサービスの練習も行っている。 (AP)地場産食材をたっぷり使い、青森県が推進している「だし活」を取り入れた優しい味の「結御膳」を提供している。マスコミにも数多く取り上げられた注目のレストランです。
3	(初) 岩手県立 盛岡農業高校	対象:一般 内容:畜産の活性化に 為、乳製品などの商品 開発中 活動:2年目	(内容)地元畜産業の振興への取組み。(盛農牛乳入りキャラメルの開発、学校での搾乳体験、販売用PR用の衣装制作、ショッピングセンター・駅での盛農牛乳の販売、地元FMラジオへの出演など) (AP)畜産農家振興のため、女子高生の若いパワーで元気が出る活動をし、今まで興味がなかった人にもより多く興味を持ってもらっている。具体的には、牛柄のカラフルな衣装で活動する「モウモウ☆TeeNs」の活動を行う。
4	(初) 富山県立 滑川高校	対象:女性 内容:化粧品の開発 活動:2年目	(内容)2016年7月 滑川高校の生徒を対象に肌に関する悩みや求めているものについてアンケートをとり、化粧水とリップクリームの商品化を決定した。含有成分を検討し、パッケージデザインなどのアイデアをだし、商品のコンセプトを提示し、2017年5月下旬発売になる。 (AP)原材料や含有成分として富山県産のものを使用することにこだわっている。今回開発の2商品は地元滑川の海洋深層水、富山県産の絹の成分、県内産ハトムギの成分を使用している。
5	(初) 静岡県立 静岡農業高校	対象:観光客など 内容:廃棄にコストのか かる松葉を利用した地 域活性化活動 活動:7年目	(内容)①基礎研究(松葉の抗酸化力、抗菌作などの発見など) ②応用研究(松葉茶、松葉健浴料、羽衣うどんなどの開発など) ③地域交流(まちづくりディスカッション、松葉うどん"m-1グランプリ") ④保全活動・松葉商品の売上げの10%を活用した保全活動 (AP)地域課題である松葉を地域資源と考え、科学的に付加価値を活かした商品開発を行う。また、売上げの10%を松原保全に活用することを宣伝することで、効能の付加価値だけでなくボランティア意識も付けることができる商品の販売を行うことができている。
6	(初) 静岡県立 駿河総合高校	対象:一般 内容:商品開発・販売 など 活動:5年目	(内容)ESDキャリアプログラムの一環として取り組む。併設の特別支援学校生とともに取り組む共生共育活動を通し、人権尊重意識と多様性共生の感覚を確かなものにしていく。また、地元企業での就業体験、企業や研究機関との共同によるフェアトレード商品や地域活性化に資する製品の開発と販売実習、病院や福祉施設等における現場実習などを通して、勤労意欲、自立心、社会貢献意識などを高めている。 (AP)・授業で学んだ知識の実践。(商売の厳しさを知る) ・コミュニケーション能力の育成、社会参画及び社会貢献に対する自覚を高めている。
7	(初) 静岡県 学校法人信愛学園 浜松学芸 中学校・ 高校	対象:一般 内容:鉄道を利用した 地域活性 活動:4年目	(内容)天竜浜名湖鉄道(天浜線)の全駅で、自分たちがモデルとなりポスターやカレンダーの制作を行った。現在は、新規のメンバーを加え、ショートムービーやCM制作にも挑戦している。 さらに、地元の食材を利用し、天浜線おにぎりを企画し、三ヶ日牛すき焼きおにぎりを商品化。その商品のCMなどの制作にも取り組んでいる。 (AP)地方のローカル鉄道と高校生のコラボという異色の組み合わせで、かつビジュアルは今の高校生には共感を、大人世代にはどこか懐かしい青春を思い出させるコンセプトである取組み。
8	(初) 愛知県立 高浜高校	対象:一般、高校生 内容:オリジナルのた い焼き型の製造販売事 業 活動:2年目	(内容)高浜の伝統技術である瓦産業と、世界最先端技術である自動車産業のものづくり技術を組み合わせ「Sの絆焼き型(オリジナルたいやき型)」を開発。現在、販売促進用に製作した高浜高校バージョンのSの絆焼き型を活用して、市内のイベント等でも実演販売や全国販売するための営業活動を行い受注に繋げている。 (AP)国宝や世界遺産等の建造物を手掛けている鬼師(鬼瓦製作職人)の伝統技術(種型製作)とレクサスやトヨタ自動車等の精密部品を製造している世界最先端のものづくり技術(金型製作)を組み合わせ製作している。この焼き型は、熱伝導率が高く約1/2の時間で焼き上げ可能。契約及び経理全般の事務も高浜高校生が行う。
9	(初) 滋賀県立 安曇川高校	対象:一般 内容:特産物(アドベ リー・梅花藻・ブラックバス) を利用した商品開発 活動:5年目	(内容)安曇川町には、「アドベリー」という地域の特産物があり、「アドベリー生産協議会」と連携し、毎年6月に果実の収穫や果実の販売を行っている。また、生徒が考案した「アドベリー」を使用したスイーツや、新旭町の針江地区の湧水のみずの美しさを知ってもらおうと考案した「梅花藻」を使用したクッキーや水饅頭、琵琶湖の生態系を破壊する外来魚を使用した「ブラックバスのフレークン・スモークン」などを毎年1月に販売実習で販売している。 (AP)国内最大の湖、琵琶湖の固有種の水産資源を守ることや、琵琶湖につながる水と共生する地域があることを、生徒の活動を通して全国に伝えている。

番号	高校名 (出場回数)	取組	取組内容とアピールポイント(AP)
10	(初) 滋賀県立 八幡商業高校	対象:一般 内容:県内外で行商 活動:5年目	(内容)夏季休業中を利用し、石川県、長野県、群馬県、静岡県等の本県と関係のある市町を訪問し、本県(滋賀)の特産物を販売する。このときに、滋賀県や近江八幡市などの特産物や地元商品を訪問先の方々にアピール。また、近江商人の手法である「産物回し」(訪問地での特産物を仕入れ、次の訪問地等で販売する)を体験する。 (AP)「行商」による販売実習を行うことで、心が折れてもすぐに立ち直る力(チャレンジ精神とリカバリー力)ならびに非常に優れたコミュニケーション能力が身につく。
11	(2回目) 三重県立 相可高校	対象:高齢者 内容:園芸を通じて高齢者宅に訪問 活動:11年目	(内容)園芸福祉活動としては、保育所や高齢者施設、小・中学校との花づくりや野菜づくりによる交流。商品開発では、地元企業と連携し、10商品の開発をし、その商品を使い福祉施設などでハンドマッサージによるコミュニティー活動を実施している。「LONELY・GHOST・BUSTRS」の活動による一人暮らしの高齢者宅の訪問事業。 (AP)① 高校生がNPO法人を運営。 ② 園芸福祉活動による地域づくり。 ③ 地域農産物を使った商品開発。 ④ 「LONELY・GHOST・BUSTRS」による新しい園芸福祉活動の展開。
12	(2回目) (第1回受賞校) 三重県立 南伊勢高校 南勢校舎	対象:一般 内容: ①セレクトギフト ②たいみー焼き ③ヒロメプロジェクト ④ふるさと教育 活動:5年目	(内容)①セレクトギフトプロジェクト(町内の特産品を高校生が選定し、ギフトとして販売していく取組) ②たいみー焼きプロジェクト(町のゆるキャラ「たいみー」をかたどったたいみー焼きを販売し、町の名物を作りあげる取組) ③ヒロメプロジェクト(漁協や役場と協働し、町で採れるヒロメの認知度や販路拡大を支援し、町の漁業活性化の一助を目指す取組) ④ふるさと教育プロジェクト(ふるさととのまちづくりを担うモデルとして、小学校などでの授業などを実施) (AP) 高校生主体のSBPの活動が、たくさんの大人の気持ちを動かした。結果、これらの活動がモデルとなり、全国でSBPが立ち上がるきっかけとなっている。
13	(初) 和歌山県立 神島高校	対象:一般 内容:南高梅の商品開発 活動:6年目	(内容)・商品開発(特産品の「紀州南高梅」を用いた商品開発を通して梅の消費拡大・PR) ・販売実習(開発した商品をイベント等で販売) ・コンテスト(高校生対照の調理・観光プラン・ビジネスプラン等のコンテストに参加し、取り組みを地域外にも発信) ・発表(各種のコンテストだけでなく、世界遺産の記念フォーラムや田辺未来創造塾等の各種勉強会でも発表) (AP)開発した紀州南高梅の梅酢を調味料として使用した「梅やきとり」は、おいしいだけでなく、梅酢の持つ様々な健康増進効果も期待できる。
14	(初) 鳥取県立 倉吉総合産業高校	対象:一般 内容: 商品開発と店舗販売 活動:12年目	(内容)高校生の店チャレンジショップ「くらそうや」を経営し。商品の仕入から店舗設置、販売まで生徒自ら行う。ここでは、①学んだ商業に関する知識・技術を活かし、②礼儀・マナーを身につけ、③コミュニケーション能力を高め、④お店を通して情報発信するという四つの学習目標に設定し、ビジネス科の目標である「専門力+人間力アップ」を目指している。 (AP)鳥取県内でも高校生の店チャレンジショップを過去数校が開店し展開をしていたが、今現在も残って展開しているのは本校の『くらそうや』だけである。
15	(初) 熊本県立 熊本農業高校	対象:養鶏農家、一般 内容: ①廃棄ノリを利用した質の高い飼料開発 ②卵の販売 活動:5年目	(内容)シュレッダーで細断した海苔を3%飼料に添加したところ、栄養価の向上や鶏の免疫力向上が見られたため、「海苔ノリたまご♥黄身に夢中♥」というネーミング及びパッケージデザインを考案し、商標登録を取得した。 (AP)①甲状腺重量測定等による鶏の免疫力向上について研究。 ②カキガラム飼料に利用。 ③ネーミングやパッケージデザインを考案し、商標登録取得。 ④養鶏農家への普及に努め、県産ブランド確立を目指す。
16	(初) 宮崎県立 飯野高校	対象:高齢者 内容:VRで旅行体験 活動:1年目	(内容)VRを活用した高齢者向けヴァーチャル旅行のサービス (AP)高齢者などにVRで疑似体験旅行を通して、思い出の場所を疑似旅行して「がんばれる！」理由を見つけてもらう。VR旅行は一人一人のニーズに応じることができるので様々なものに対応することができる。新婚旅行や大好きな温泉、お孫さんとの思い出、これから行ってみたい場所などなど最適なプランを用意できる。
17	(初) 佐賀県立 伊万里農林高校	対象:子ども、高齢者 内容:くず黒米の商品開発 活動:3年目	(内容)黒米を粉にし、アレルギー対応という付加価値を付け、添加物や卵、小麦等を使わない安全な黒米スコーンの商品化をした。年間に出るくず米の約1割を商品化を目指す。また、地域の農家で摘心により発生するプチベールの葉のカルシウム含量に着目し、小さい子どもやお年寄りが手軽にカルシウムを摂取できる衛生ボローの試作に取り組んでいる。 (AP)日頃の専門学習において学んだことを活かし、アレルギー対応や、栄養補給等の栄養価的付加価値が高い商品作りをしている。市場に流通しない農産物を使用することで安い価格設定が可能である。
18	(2回目) 沖縄県 西原町内の 高校生	対象:一般 内容: ①商品開発 ②イベントのボランティア ③特産品販売PR 活動:4年目	(内容)1、地元産物活用の商品開発PJ(①パン ②石鯛) 2、観光モニターPJ 3、演劇PJ(創作演劇 さわりんと運玉義留) 4、地元地域イベント応援ボランティア(①祭り ②清掃活動 ③沖縄マラソン) 5、販売(地域特産品)PR(①地元祭り ②首都圏) (AP)西原町在住の高校生が近隣高校10校から集い、週末などを使い活動をおこなっています。

# 地域ビジネス創出事業 (Social Business Project、略称:SBP)



参考2

## 地域の課題をビジネスの手法を用いて解決していく取組。

具体的には、高校生らが地域資源を知り、見直し、活用して“まちづくり”や“ビジネス”を提案し、その取組を、地域で応援し支えていくもの。

三重県多気町にある相可(おうか)高等学校食物調理科調理クラブが運営する高校生レストラン「まごの店」等を先進事例に、平成25年4月に三重県立南伊勢高等学校南勢校舎で最初のSBPが立ち上がった。現在、同様の取組が全国に広がっている。

文部科学省は、平成29年8月に三重県伊勢市で行われる「第2回全国高校生SBP交流フェア」を共催することとしている。

第1回 全国高校生SBP交流フェア(8/19-20) 参加地域



(第1回全国高校生SBP交流フェアの事例)

高校生レストラン「まごの店」  
(三重県多気町)



南伊勢高校SBP  
(三重県南伊勢町)



NS²BP  
(沖縄県西原町)



図及び写真の出典: 「第1回 全国高校生SBP交流フェア」パンフレット

# 事例紹介 高校生レストラン (三重県立相可高校食物調理科調理クラブ)

- 平成14年に地元多気町と連携し、農業公園「五桂池ふるさと村」に、高校生が休校日の土・日・祝日に営業する研修レストラン「まごの店」を開設。高校生は、仕入れから、調理、接客並びに経理まで一貫して行う。
- 当初は、野外テントで運営していたが、高校が文部科学省事業\*1の指定校となったことを契機に、平成17年度に多気町及び三重県が共同で現在の研修レストランを建設し経営を拡大した。
- 隣接する農産物販売所を含む地元食材を活用した料理を提供し、連日満員の賑わいを見せている。年間食数は約1万5千食\*2、売上高は約5千万円\*3。運営にかかわる材料費、施設管理費及び水道光熱費等を含め、自治体からの補助を受けずに運営している。



## 当取組の評価(一部)

年度	主催者	表彰名
平成26年	国土交通省	手づくり郷土賞「大賞」
平成23年	総務省	地域づくり総務大臣表彰「優秀賞」
平成21年	フード・アクション・ニッポン	コミュニケーション・啓発部門「最優秀賞」
平成18年	全国農業協同組合中央会(JA全中)	日本農業賞特別部門食の架け橋賞「大賞」
平成17年	国土交通省	手づくり郷土賞「地域整備部門賞」

\*1: 文部科学省「目指せスペシャリスト」  
 \*2: 2014年度食数 15,958食、実施日数 90日 ※他に弁当等を作って販売している  
 \*3: 2014年度売上高 54百万円  
 \*2及び3は、文部科学省「27年度地域政策等に関する調査研究～地域振興に有効な教育実践の実態把握と普及方策に関する実践研究」より

# 事例紹介 南伊勢高校SBP (三重県立南伊勢高校南勢校舎)

- 南伊勢町の急激な高齢化と人口減少による町の衰退が予測される中、魅力的な町を残すため、平成24年度に地域ビジネス創出プロジェクト(SBP)を立ち上げた。自分たちのまちの魅力を知り、地元愛を育て、地域資源を生かしたビジネスを立ちあげ、自ら働く場を確保することで地域に残れる仕組みをつくっていくことを目標にしている。
- 現在、「セレクトギフト」(第3弾まで完売)と「たいみー焼き」(産業振興イベント等に出席)等の取組を行っている。また、地元小学校での特別授業を行った他、南伊勢町まちづくりリーダー研修に参加する等、地域活性化・まちづくりに参画中である。
- 29年度から高校のコース名が「アドバンス」から「地域創生アドバンス」に変更される等、波及効果が出ている。

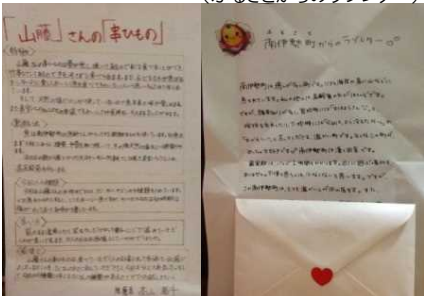


## 南伊勢町の特産品の詰め合わせ「セレクトギフト」



- 1.セレクト会議
- 2.パッケージデザイン
- 3.仕入れ交渉
- 4.箱詰め
- 5.販売

南伊勢への思いをつづった手紙  
商品の紹介文 (ふるさとからのラブレター)



**アンケート結果から**  
・「東京都」「福岡県」「愛知県」など多方面に届いている。  
⇒南伊勢を出て行った方に、「南伊勢からの贈り物」としてふさわしいと認められている。

## 町のゆるキャラの形をしたたい焼き「たいみー焼き」※鯛とみかんがモチーフ



### 材料

- ・たい焼き粉(町内)
- ・はちみつ(町内)
- ・卵(町内)
- ・あおさ(町内)

26年11月の焼き型



27年9月の焼き型



## 地域活性化・まちづくりの一員として活躍

地元小学校での特別授業の様子



南伊勢町まちづくりリーダー研修の様子



# 事例紹介 NS<sup>2</sup>BP (西原町学生ソーシャルビジネスプロジェクト)

- 琉球大学が立地する「文教のまち」であり、那覇市のベッドタウンとして人口が増加している。一方、那覇市及び「首里城」等の観光地が近接しているものの観光客の流入が少ないことを課題としている。そこで、平成26年度に西原町役場が「西原町を元気にするプロジェクト」としてNS<sup>2</sup>BPを組織し、西原町出身の高校生（現在、県内11校に在籍）の力で観光客が訪れるように「特産品」の開発等を通じて西原町の魅力を発信する取組を行っている。
- 主な取組は、①地域を学ぶ活動、②地域を光らせる活動、③地域と歩む活動である。なお、平成27年12月に会則と印鑑を作り、そして、独自活動をするために口座も開設している。

西原町  
産業観光課

琉球大学

民間企業  
西原町商工会

西原町在住  
高校生



## ①地域を学ぶ活動

歴史探訪



企業訪問



自治会訪問



## ②地域を光らせる活動

広報

(沖縄国際映画祭の西原応援団、イオン琉球「幸せの黄色いレシートキャンペーン」等)



渉外、商品開発  
(石けんプロジェクト、パン★プロジェクト)



県外販売



## ③地域と歩む活動

ボランティア  
(ビーチクリーニング等)



公民館まつりに参加



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN